

浜坂町でアシダカグモの生息を確認

山本 一幸

徘徊性のクモでは国内最大と言われるアシダカグモ *Heteropoda venatoria* は、関東以南の太平洋側に広く分布する。しかし、日本海側では稀で、但馬地方では今まで記録がなかった。昨年(1999年)、美方郡浜坂町の飲食店に出現した個体が採集され、筆者の元に届けられ、本種であることが確認された。但馬地方では初めての採集記録であったことから、新聞(日本海新聞)に掲載された。その後、記事を読んだ人たちから新たな情報が寄せられたので、それらの記録と若干の知見を報告する。

採集データ

- 1) 1♂, 兵庫県美方郡浜坂町浜坂, 1990-IX-4,
宇野明採集
- 2) 1♂, 兵庫県美方郡浜坂町浜坂, 1999-IX-11,
株本尚夫採集
- 3) 1♂, 兵庫県美方郡浜坂町浜坂(加藤文太郎記念
図書館), 1999-X-2
- 4) 1♂, 兵庫県美方郡浜坂町浜坂(寿司亀食堂),
1999-X-7

本種は屋内に生息しており、夜間に徘徊してゴキブリやハエ、ハサミムシなどを捕食する。メスは体長25~30mmとオス(体長15~25mm)に比べて一回りも大きく(千国, 1989)、脚を含めると10cm以上にもなる。採集された個体はいずれも成熟したオスで、9月から10月にかけて採集されている。この時期にオスが発見されるのは、配偶行動に際してメスを求めて徘徊していたものと考えられる。

本庄・山本(1990)が但馬地方のクモ類をまとめた時点では、本種は確認されていなかった。しかし、「今までに記録はないが、但馬に分布していてもおかしくない種」として課題を投げかけていた。今回、宇野明氏より提供された標本は、1990年に採集されたものであり、すでに10年前には本種が生息していたことが実証された。

但馬地方の郊外の家屋には、近縁のコアシダカグモ

Sinopoda forcipata が入りこんでいる。両種の形態はよく似ているが、コアシダカグモの方が小型で、メスでは腹部の後端に黄色の三角の斑紋がある。また、アシダカグモのオスには胸部の背甲に大きな黒色の斑紋があり、コアシダカグモにはないことで区別がつく。

アシダカグモが今回発見された市街地の飲食店や食料品店などは、環境が安定しており、餌も豊富にある点で生息に適している。今後、他の地域でも同じような場所で発見される可能性は大きい。

参考文献

本庄四郎・山本一幸(1990)但馬のクモ類目録,

IRATSUME13/14:1-33.

谷川明男(2000)日本産クモ類目録, Kishidaia78:
79-142.

千国安之輔(1989)写真日本クモ類大図鑑, 偕成社,
東京.

日本海新聞(1999年9月19日朝刊)アシダカグモ但馬
で初記録.

《訂正》

IRATSUME23号の34ページ“和田山町で採集されたカトウツケオグモ”の採集年月日のデータ(7行目)に誤りがありました。以下に訂正しますとともに、ご迷惑をおかけしました著者ならびに読者諸氏に謹んでお詫び申し上げます。

(誤) 1998-IV-2 → (正) 1998-IX-2